

将来の社会的責任規格 ISO 26000 原案作成の進捗状況

組織が社会的責任を果たし運営する上で役立つ任意ガイダンスの国際的なコンセンサス構築は、社会的責任に関する規格となるISO 26000を開発しているISOの作業部会による先日の会議で進展が図られた。

55の国々と26の国際組織から約320名が参加し、社会的責任に関するISO作業部会(WG SR)の第3回総会が2006年5月15～19日にポルトガルのリスボンで開催された。

ISO 26000は、先進国と発展途上国の公共・民間双方の部門におけるすべての種類の組織によって使用されることが意図されている。ISO 26000には要求事項ではなくガイドラインが盛り込まれることになっている。マネジメントシステム規格ではないので、ISO 9001:2000やISO 14001:2004のような認証規格として使用されることはない。今のところ、このISO 26000は2009年第1四半期に出版される予定である。

規格内容の草案作りは進んでいる。リスボンでの主な任務の1つは、第1次作業原案についてWG SRメンバーから寄せられた約2,100件にのぼるコメントの見直しをすることであった。この作業は第2次作業原案を作成するために続行される。第2次作業原案は、2007年初頭の次回WG SR会議の前にコメントを求めるためにWG SRメンバーに回付される。

ISO 26000は、6つの主なステークホルダーグループ(産業、政府、労働、消費者、非政府組織、サービス・支援・研究・その他)の代表によって開発されている。更に、参加者の地理的な配分や性別に基づくバランスを維持する努力もなされている。

ISO 26000のガイダンスには、既存の公共部門及び民間部門のSRのイニシアティブによって開発されたベストプラクティスが活用されることとなる。国連や国連構成組織に関連する宣言や条約と整合させ、また、それらを補完することになり、特に国際労働機関(ILO)とISOは、ILOの労働規格との整合性を確保するために覚書を結んでいる。

規格内容に関する作業に加えて、リスボン会議では、WG SRへの参加と責任を強化するために、WG SR自体の運営の枠組みをさらに規定した。WG SRはまた、世界の各地における社会的責任に対する認識、当該ISO規格の重要性、また、いかに多種多様な関心がISO 26000の規格形成やその他の社会的責任活動に非常に効果的に寄与するか、についてを啓蒙するコミュニケーションツールを開発し続けている。

コミュニケーションツールには、ISOのSRイニシアティブに関する豊富な資料を掲載した専用のウェブサイトwww.iso.org/srが含まれる。このサイトには最新のパンフレット[Participating in](#)

[the future International Standard ISO 26000 on Social Responsibility](#)「社会的責任に関する将来の国際規格 ISO26000 開発への参加(邦題)」が掲載されている。このパンフレットは、英語の他にも、アラビア語、フィンランド語、フランス語、日本語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語でも入手できる予定である。

リスボン会議は、企業倫理に関するポルトガルの組織(APEE-*Associação Portuguesa do Ético Empresarial*)とポルトガル規格協会(IPQ - the *Instituto Portugues do Qualidade*)によって共同開催され、特にポルトガル郵便事業(CTT)とポルトガルグラウンドフォースというポルトガルの組織から出資を受けた。WG SRの活動の成功を願うメッセージがポルトガルの大統領と首相から寄せられた。

WG SRのリーダーは、リスボン会議について以下のようにコメントした。ブラジルのISOメンバーであるABNT(ブラジル規格協会)によって任命された議長のMr. Jorge E.R. Cajazeiraは、次のように述べた:「この会議は、ISO 26000への道において重要な出来事であり進展であった。」

スウェーデンのISOメンバー、SIS(スウェーデン規格協会)によって任命された副議長のMr. Staffan Söderbergは、次のように言及した:「第1次作業原案に関するすべてのコメントに取り組むことがリスボン会議の主な目的であった。専門家達が彼らのコメントが反映された主要テーマについて取り組み、会議の目的が達成されたと感じていると私は認識している、このことは私にとっても非常に満足のいくものであった。」

社会的責任に関するISO作業グループの次回会議は、2007年1月又は2月にオーストラリアのシドニーで開催される。